

岡山大学 MONTHLY DIGEST

vol. 124
2026.8

TOPICS

1

文部科学省・JST「先端研究基盤刷新事業(EPOCH)」に採択 ～人的資本による知と技の共創の場が切り拓く、 我が国の研究環境・基盤の刷新の実現へ～



本事業は、「第7期科学技術・イノベーション基本計画」の期間中に、我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、全国の研究大学等において、地域性や組織の強み・特色等も踏まえ、技術職員やURA等の人材を含めたコアファシリティを戦略的に整備。あわせて、研究活動を支える研究設備等の海外依存や開発・導入の遅れが指摘される中、研究基盤・研究インフラのエコシステム形成に向けて、産業界や学会、資金配分機関等とも協働し、先端的な研究設備・機器の整備・共用・高度化を推進する事業です。事業期間は、本年度から10年間で。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15603.html

TOPICS

2

耕作放棄地から「ふるさとミライ」をデザイン！ 新見市×4大学が夏季集中フィールドワークを初開催

本学と新見市、岡山県立大学、戸板女子短期大学、大阪公立大学は、総務省「ふるさとミライカレッジモデル実証事業」の一環として、7月31日～8月5日の6日間、新見市神郷地区などで夏季集中フィールドワークを実施しました。

本事業は、人口減少に伴い増加する耕作放棄地を、生物多様性に富んだ「食べられる森」へと再生するとともに、農・食・データ・デザインを組み合わせ、都市部と地域をつなぐ新たな関係人口の創出を目指すものです。

期間中は、4大学の学生8人と教員、地域コーディネーターが現地に滞在し、それぞれの専門分野を生かした実践活動を行いました。

本フィールドワークの特色は、参加学生が講師役となり、互いの専門知識を共有したことです。本学経済学部と工学部の学生は、圃場の様子を遠隔で確認できるモニタリングアプリの試作品を開発しました。

学生たちは、分野を越えてアイデアを結び付け、地域での実践へと発展させる手応えを共有し、6日間の活動を終えました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15577.html

Pick up!

岡山大学広報「いちよう並木」Vol.112を発行



- 巻頭特集：新入生の夢、その現在地。
3年前、本誌103号で「新入生の夢」を語ってくれた6人の学生たち。「あの日の夢」は、今どう変わったのか。6人それぞれの“現在地”を通して、大学で過ごす時間が人をどう成長させるのかを紹介します。
ぜひ、103号もあわせてご覧ください！
- “それっぽい”の正体は何！？ゲーム・アニメから読み解く「中世ヨーロッパ史」
- 学生が本気で車をつくる。フォーミュラプロジェクト
- 好き！で輝く 岡山大学の学生たち
- 新作登場！岡大グッズをチェック！
- OU NAVI
- 岡大モノクローム #15

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15561.html

TOPICS

3

鳥取県三朝町で耳鼻咽喉科・補聴器診療を開始 ー非都市部における持続可能な「聞こえの医療」モデルの構築へー

本学は、鳥取県中部医師会立三朝温泉病院、三朝町、鳥取県中部医師会、鳥取県と連携し、2026年10月8日から三朝温泉病院に耳鼻咽喉科外来を新たに開設します。

既存の設備を最大限に活用し、初期投資を抑えた小規模な診療モデルとして、三朝温泉病院において耳鼻咽喉科外来を6カ月間試行することが決定しました。

本取り組みの目的は、単に診療機会を設けるだけでなく、住民のニーズを起点として必要な医療と支援を構築し、その有用性を検証することです。また、初期投資を抑えた形で試行することは、将来的な他地域への展開可能性を考える上でも重要です。医療資源が限られた非都市部において、地域の既存資源と地域外の専門人材を組み合わせ、持続可能な聴覚医療・補聴支援体制を構築するための、小規模ながらも実践的な第一歩となります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15569.html



TOPICS

4

工学部環境マネジメントコース2年生が実行委員を務める 小学生対象の公開講座「トンボの学校」を開催



7月26日、工学部環境マネジメントコース2年生が実行委員を務める公開講座「トンボの学校：岡山大学でトンボを採って種類や生態を学ぼう！」を開催しました。当日は、子どもと保護者が計79人が参加し、本学の自然環境を活用した体験学習を楽しみました。

参加者は、本学の「誕生池」で、株式会社ウエスコの貸谷康宏氏の指導のもとトンボ採集を体験しました。夢中になって網を振りながら採集を楽しんだ後は講義室に戻り、捕まえたトンボの種類や特徴、生態について学びました。

また、「きみも生きもの博士！観察の『め』を育てよう！」、「顕微鏡で生きものを観察しよう！」、「夏の青空へ飛び出せ！きみの色でぬるトンボ工房」の各企画を実施しました。

最後は、「真夏のクイズ王はだれだ！？トンボ&岡大の〇×クイズ大会」を開催。正解が発表されるたびに大きな歓声が上がり、会場は大いに盛り上がりしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15553.html



PRESS RELEASE

プレート内の“見えない水の流れ”が 深発地震とプレート大変形を制御していることを発見

岡山大学学術研究院先鋭研究領域(惑星物質研究所)の石井貴之准教授らの国際研究チームは、高温高圧実験により沈み込むプレート内部の環境を再現し、プレート内部での“水の移動”が深発地震の発生に大きく関わることを明らかにしました。

深さ400～700 kmで起きる深発地震の原因は長年の謎でした。本研究では、プレートを構成する岩石の高温高圧条件を再現し、鉱物間での水の受け渡しを調べました。その結果、低温のプレート中心部では水を蓄える特殊な鉱物に水が集中し、主要鉱物はほとんど水を含まない一方、周囲の高温部では水を蓄える鉱物が徐々に脱水し、その水が主要鉱物へ移ることで、プレート内部に“主要鉱物内の水の濃淡”が生じることがわかりました。この水分分布の違いが、深発地震の発生位置や、プレートが660 km付近で停滞する現象を説明できることが示されました。また、最深部(約700 km)の地震は、水を蓄える鉱物が急激に分解して水を放出する「脱水反応」が引き金となる可能性も示唆されました。本成果は、地球内部の水循環や深発地震の理解を大きく前進させるものです。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1581.html

